（前頁よりつづき↙）事業を拡大するための施設整備については、県が窓口になり、農水省に働きかけていくよう迫った。

■県土整備部

Y住宅販売会社差別事件にかかわって、宅建業界・宅建業者の人権研修の義務化について、県からも国へ強く要求してもらいたい。また、県として住宅問題、建設業者の実態について現状把握はしていると思うが、具体的な施策をすすめてほしいと問題提起した。つづいて、支部要求について県から回答をもらい、各支部からの質問や要求が出された。道路・河川・住宅等の支部要求について、各振興局をとおして事前に現場確認が済んでいるところも多く、現状については把握していた。しかし、事業主体が市町になる場合については、県として指導・助言にとどまってしまうという回答にたいし、各支部からは、県の指導・助言を強力にすすめてほしい、また県としてなにか対策はないのかなど、厳しい質問・要求が出された。

■商工観光労働部

部落の不安定就労問題や厳しい雇用状況、大型共同作業場の課題解決にむけての交渉をおこなった。

雇用対策については、就職促進相談員（県内に7人）による隣保館への巡回相談をおこない、ハローワーク求人情報のオンライン提供を活用した支援を実施しており、昨年度は79人が就職内定したと回答があったが、その後の追跡調査で固定率など現状把握をするよう要求した。今後さらにオンライン求人情報を充実させ、巡回相談の回数も増やしたうえで、きめこまかい相談業務を実施するとともに、資格取得や職業訓練の施策も充実させるよう求めてきた。

大型共同作業場（現在39か所稼働）の多くの課題については、これまでの状況調査をもとに、目先の問題だけでなく長期的なとりくみ（新商品開発、業務内容の見直し、地域での物産展など）をおこない、県が主体となって設置市・町とともに支援を含めた経営改善をはかり、地域の雇用創出につながるとりくみをすすめるよう求めた。

■教育委員会

部落の児童・生徒の学力と生活、進路などについて課題があると認識しているとしたうえで、支部要求を中心に交渉した。

学力向上にむけて少人数指導やTT、読書時間や放課後学習を設けるなどのとりくみをおこなっており、学推教員や生徒指導・進路指導教員が連けいし、児童生徒個々にきめこまかい指導をしていると回答があった。

通学路の安全対策について、各学校が主体となり地域と連けいしながら合同安全点検をおこない、周辺地域や事業所等への交通安全の申し入れや啓発活動に努めると回答があった。

東牟婁管内の学校内で差別発言等が頻繁に発生している状況を重く受け止め、部落や障がい者への差別意識がある問題について、子どもたちにどういう内容で人権教育をおこなっているのか明らかにするよう要求した。

また、親の不安定就労が子どもの低学力に影響を与えると提起したうえで「就学奨励事業」の拡充をはかるとともに、経済的理由で修学が困難なすべての子どもたちに、教育の機会均等を図るため要件を緩和した新たな「給付型奨学金制度」を設けるよう強く要求した。

理論と実践の交流を
第48回全研

10月20日～22日、第48回全研が京都でひらかれ、全国から約7千人が参加した。

全体集会では、京都府連から「解放運動の軌跡と今後の課題」として歴史的経緯と現在の課題について報告があった。つづいて「ヘイトスピーチを糾弾する」と題して、シンポジウムがあり、ヘイトスピーチの現状と問題点をジャーナリスト、朝鮮学校関係者、奈良県連など、それぞれの当事者や目撃者の立場から状況や思いを語った。参加者から、露骨で攻撃的な差別扇動が日常生活のなかで公然とおこなわれている事実が発言された。また、国連等からも厳しく指摘されながら、具体的な行動を取らない政府に、学者、法律家からの批判と「差別禁止法」の必要性が報告された。

組阪繁之・中央執行委員長のあいさつを聞く参加者

2日目は、具体的なテーマに沿って7分科会に分かれて報告や議論が交わされた。とくに、第6分科会「差別事件・糾弾闘争」では、池田清郎（中執、県連副委員長）から「Y住宅差別事件」の経過と背景について報告され、とくに「市民の部落への忌避意識」「差別が常態化する業界」、そして行政の課題について提起された。

最終日は「性的少数者」などをテーマに記念講演がおこなわれた。

10・31狭山事件の再審を求める市民集会

東京・日比谷野外音楽堂で10月31日、狭山事件の再審を求める市民集会がひらかれ、全国から約3000人が集まった。和歌山県から各支部や県共闘会議、同企連、同宗連など56人が参加した。

集会では、狭山弁護団の中山武敏・弁護士と中北龍太郎・事務局長から、前日の30日におこなわれた三者協議において、検察から28点の新証拠が提示されたことや取り調べ録音テープを検証するなかで、警察によって自白が誘導されており、犯人しか知りえない秘密の暴露ではないことは明らかだと訴えた。石川さん・早智子さんも支援を訴え、足利事件の菅家さん、布川事件の杉山さん、袴田事件の袴田巌さんと姉の秀子さんも、一日も早い無罪判決を勝ち取るため、ともに闘っていくと連帯をアピールした。集会終了後、日比谷から約50分のデモ行進をした。

あいさつする石川一雄さん、早智子さん

今後の日程

12／18　第3回青年対策部会議
12／19　対県2次交渉
12／20～21　第46回全国高校生集会・第58回全国青年集会　（大阪）
12／20　LGBT勉強　（ビッグ愛）
12／22　狭山ビラ統一行動
　　対県2次交渉
12／25　部落解放・人権行政確立要求中央実行委員会第12回総会　（京都市）
12／26　仕事おさめ

支局からのお知らせ

お気軽にお電話を！

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思います。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎！　写真を添えて支局までお送り下さい。

（発送先）〒640-8314
和歌山市神前405-3
部落解放同盟県連合会内
解放新聞和歌山支局宛